

まんとさく



新見公立短期大学 学長就任挨拶

難波 正義

平成十四年度の入学式を、石垣新見市長、田村市議会議長始め多数のご来賓のご列席をいただき、さる四月八日に無事挙行いたしました。本年度の入学生は看護学科七十五名（男子三名）、幼児教育学科五十六名（男子三名）、地域福祉学科五十五名（男子三名）、計百八十六名でした。皆様のご入学を心からお祝い申し上げます。

この度、私は本学教授会の各位のご推薦により、新居前学長の後を受けて、本年四月一日より学長の仕事をさせていただくことになりました。何卒、皆様のご支援、ご鞭撻よろしく願いたします。

私は本校に参ります前、岡山大学の医学部で、「がん」の研究をやってきました。「がん」の研究にはいろいろありますが、私の研究テーマはヒトの細胞の発がん実験でした。発がん物質を直接人に投与して癌を発生させるわけにはゆきませんので、人の細胞を培養して、培養条件下で細胞を発癌物質で処理して細胞を癌化させ、その癌化の過



程で細胞にどのような変化が起こるかを調べる研究でした。幸い、ヒトの細胞を培養条件下で癌化することに、世界で最初に成功しました。三十年前のことです。培養された細胞を毎日眺めながら、その細胞が癌化したらどのようになるかを期待して、わくわくする毎日を送りました。

新見公立短期大学は、歴代の学長先生を始め教職員のご努力により、卒業生の方々が社会で高い評価を受けて居られることに心から敬意を表します。しかし、現在、日本の大学は少子化や学生の学力低下の現実に直面して従来のままの在り方で、社会に必要とされる人材を養成出来るのかどうかを厳しく問われています。

私は教職員の方々とともに、上に述べた厳しい現況の中でも、社会で高い評価を受けられる学生の教育を目指し、また、教職員の方々がその目的のために存分に働いていただける教育的環境を作りあげることにも邁進したいと存じています。

卒業生の方々に母校に対してのさらなるご支援、ご鞭撻をお願いいたしますとともに、いろいろのご意見、ご助言を大学にお寄せ下さいますようお願いいたします。卒業生の方々の社会からのメッセージは大学の今後の運営に非常に役立ちます。

末筆になりましたが、皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

発刊 新見公立短期大学（岡山県新見市西方二二六三の二） 〇八六七七二一〇六三四

編集 学報編集委員会

第一回 海外学術交流団派遣報告

アメリカ合衆国交流団派遣報告

大韓民国交流団派遣報告



お世話になった方々と

一組目は三月十九日から四月二日の日程で、大佐町の姉妹都市である米国ニューヨーク州ニューパルツに派遣されました。本学の訪米団派遣は初めてであり、一行(教員は桑原夫妻・塚本・矢藤・山内、学生は十七名)はニューパルツで、ニューヨーク州立大学ニューパルツ校と国際交流協会により大歓迎を受けました。学生は、ホームステイをし、英会話レッスン、医療・保育施設訪問、各種歓迎行事など、色々体験し有意義な時間が持てました(本誌六ページの金久弥生さんの文章参照)。米留学中の看護学科十七期生の藤原智里さんも合流してくれました。



東明専門大学にて

もう一組の海外学術交流団は三月二十日から二十六日の日程で、大韓民国に派遣されました。団員一行(教員は石田・石橋・原田・山中、学生は六名)は、釜山広域市の東明専門大学を訪問し、日本語学科の教員・学生と交流しました。特に学生は、韓国の学生たちと講義を受けたり、一緒に釜山市内を見学したりして、忘れがたい貴重な体験をしました。すっかり仲良しになって帰国後も電子メールで文通を続けている学生もいます。サッカーのワールドカップが日本と韓国で共同開催される記念すべき年に訪問したおかげで、熱烈的な歓迎を受けました。

公開講座

委員長 石田純郎

平成十四年度(第三十一回)の公開講座が五月三十一日より六月二十八日まで行われました。午前の講座のテーマは「子育て・孫育てを楽しむ」で、夕方の講座のテーマは「新たな時代の保育と子育て」でした。今回の講義は主として幼児教育学科の先生が担当されました。新しい試みとしては、午後の講座を午後六時開始にしたことで、これにより仕事をおもちの方も参加が容易になりました。好評なら今後も続けていきたいと思えます。

平成 14 年度 新見公立短期大学 第31回 公開講座

講座テーマ 「子育て・孫育てを楽しむ」

回	月日	講座	講師
1	5月31日(金)	子どもの表現を楽しむ	新見公立短期大学 助教授 山中 文
2	6月 7日(金)	子どもの描くもの作るものを楽しむ	新見公立短期大学 講師 金山 和彦
3	6月14日(金)	子どもの成長を楽しむ	新見公立短期大学 講師 光本 弥生
4	6月21日(金)	子どもと身体を動かす	新見公立短期大学 教授 片山 啓子
5	6月28日(金)	日米文学にみる子育て	新見公立短期大学 助教授 原田信之・山内圭

講座テーマ 「新たな時代の保育と子育て」

回	月日	講座	講師
1	5月31日(金)	家庭での子育てと幼稚園・保育所の保育	新見公立短期大学 助教授 高月 教恵
2	6月 7日(金)	子どもの発達とジェンダー	新見公立短期大学 教授 石橋 由美
3	6月14日(金)	子どもの表現活動と大人の関わり	新見公立短期大学 教授 安達 雅彦
4	6月21日(金)	ノーマライゼーションと子育て	新見公立短期大学 講師 東 俊一
5	6月28日(金)	子どもを育てるための社会づくり	新見公立短期大学 助教授 矢藤誠慈郎



学友会執行部より

学友会長 道繁 由香里

私たち学友会執行部は各学科七名（うち一年生が各学科二名）の計二十一名で運営しています。活動内容としては、新入生対象の学生交流会、鳴滝祭のサポート、スポーツ大会、球技大会、クリスマス会、学生の意見を反映させるための年二回の定例総会などがあります。今年度は四月に行われた学外オリエンテーションも学生交流会と名を改め、また一日のみの活動となったので、計画を始めてから学生交流会の前日まで頭を悩ませながら、それでも新入生の人たちに楽しんでもらえるよう力を尽くしました。



より良い学生生活を送れるよう力を尽くしていこうと考えています。

鳴滝祭の疲れがあるにもかかわらず、スポーツ大会も前年に比べ参加人数も増え盛り上がったように思います。これからも学生のみなさんが

鳴滝祭を終えて

鳴滝祭実行委員長 大越 杏安子

第四回鳴滝祭は「Stay Go!」いつまでも金ビカのままで」というテーマのもとに開催されました。今年度は、昨年まで中庭で行っていたメインステージと模擬店をグラウンドに移しました。プロコンは爆笑オンエアバトルで有名なルート33とロザンの二組を迎え盛り上がりました。メインステージの企画では「もう胃っツ」や「ためしてガブツチヨ」や「アームレスリング」など賞金を懸けて戦い、「なりきり高校生コンテスト」ではたくさんの方が母校の制服を着て出場しました。前もって全学生に投票してもらった「ミ



スター・ミスコンテスト」はグランプリ、準グランプリに輝いた人がステージの上にあがりました。「ピンゴ大会」では、一等がハワイ旅行、二等がDVDプレイヤー、その他八十以上の景品を揃えて行なったので大変盛り上がりました。鳴滝祭で実行委員を務めたり企画に出場したり、クラスやクラブで模擬店を出したりすることで友達の輪が広がり新生活での楽しい思い出のひとつになったと思います。鳴滝祭で養った団結力をいかして、これからの新生活をもっともっと楽しみたいと思います。最後に鳴滝祭を開催するにあたって、たくさんのご支援、ご協力をいただきました学校関係者の方々、地域の方々、本当にありがとうございました。



いました。そして、実行委員のみんな、連日夜遅くまでお疲れ様でした。

看護学科

「生」を学ぶ臨地実習

「生命」の尊さを実感し、母性

三年次生 勝 又美穂

「九時二十六分、女の子です。おめでとございます！」分娩室に助産師の明るい声が響いた。母親の側で私は、息を飲んでその瞬間を見つめていた。そして、産まれたばかりの小さな命は、安堵の表情を浮かべる両親が見守る中、その命の炎を刻々と確かなものへと変化させていった。そこには、赤ちゃんの生きようとする圧倒的な生命力と希望という光が満ち溢れていて、私はそれらを全身で感じながら、大きな感動に包まれていった。その感動は今まで体験したことのない不思議なもので、気づくと涙が溢れていた。

母親の側で安心したように眠る赤ちゃんを見つめながら、今何を考えているんだろう。何を感じながら産まれてきたんだろうと、そんなことを考えた。出産というものを、今まで母親の行為として私は捉えていた。しかし、この場に立ち会って、赤ちゃんも一人の人間で、きつと何かを感じていると実感した。この世に産まれてこようとする赤ちゃんの力、そしてそれに母親が応えること、それが出産なのだ。そこには赤ちゃんの精一杯生きようとする

意志が、確実に働いているのである。今回、命の誕生に向き合うことで、生きようとする気持ちは、人間の最も基本的な部分だと改めて感じた。看護は、その生きようとする気持ちに添い、そこに手を貸していく仕事である。そのことに気づくことのできたこの経験を、私は一生忘れない。



写真は曾我部麻理さん

「人生の重み」に感動し、老年

三年次生 宮崎 亜希子

石原可奈子

九十四歳の痴呆性高齢者の方に関わる機会がありました。その方は、その時々で過去の出来事を全く異なる内容で話されたり、不安や寂しさ、苦痛を訴え「辛かったんじや」を繰り返されるのでした。私たちは、理解し難いお話を痴呆の症状だと勝手に解釈をして、納得させていました。その方が、在日韓国人であることが分かったのは、実習最終日でした。戦前戦後を通して厳しい差別や貧困の中で、私たちが想像することすら

出来ないような人生をたどってこられたのかも分かりません。そのとき初めて「辛かった」という言葉が胸にズシンと響いたのでした。痴呆症状も、その方の人生や生き方に影響を受けているのです。高齢者その人を丸ごと受け止め、その人の人生と共に理解しようとする姿勢が重要だと実感しました。

施設の中で、不自由な体を一生懸命動かしながら、「これをしておかないと」とりハビリに励んでおられる高齢者の姿を見て、私たちも「今、そしてこれから」を真剣に考えることを教えられました。高齢者に少しでも生きることの喜びや楽しみ、そして安心感を提供したいと思えました。人が好きになった実習でした。



楽しいレクリエーションリハビリ

新教員紹介



福原博子

はじめまして。この度母性看護学を担当することになりました。今までは、岡山大学付属病院、三菱水島病院、岡山中央病院で、計九年間助産師の仕事に携わってきました。その間、思春期相談員の資格をとったり、マタニティ・ヨーガの教室を作ったりして、とても充実した日々でした。仕事の中でも、特に好き！というものは、やはり赤ちゃんの沐浴です。赤ちゃんのかわいがり方には特に定評がある私です。

今までは学生さんを迎える立場だったのですが、四月から学生と一緒に臨地実習へ出ています。臨床にいたときに以上に学生がとても可愛く思えます。可愛いなんてほんとに失礼ですが、学生が検温に行く時も、妊産婦さんへの集団指導をするときも、子供の参観日に行った母親のような気分です。実習でも講義でも、頼りにしてもらえ教員になりたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

地域福祉学科

土台となるものを

私は、なぜ福祉の道を選択したのか、正直、わかりません。

決して、前向きな考えでの選択ではありませんでした。ただ、自分自身を変えなければ、という気持ちだけがありません。

同じ資格を取得するならば、専門学校という選択肢もありました。しかし、大学と名がつくからには、専門知識、技術だけではなく、幅広く学べ、違った自分を発見できるのではないか、と思いました。実際に講義を受け始めると、どの講義も基本となっていて流れているものは同じで、当たり前の視点からだけではなく、広い視野をもって、地域社会、また個々の人間の地域文化をとらえていく、ということがあるのではないかと思います。二年間で、どこまでその根底にあるものをつかめるかわかりませんが、このことは、福祉の場だけではなく、今後の人生においても非常に重要な視点の持ち方になるのではないかと思います。

以上のようなこともあり、この新見公立短期大学へ入学でき学べることを、素直に喜んでおります。

また、今回のような選択をしなれば、決して交わることはなかったであろう人々と出会えたことも、非

常に貴重な経験、財産となっていくものと思います。

この二年間で、専門分野はもちろんのこと、今後の人生を送るにあたって土台となるものを養っていききたいと思います。

より広い自分に

一年次生 宮本千恵子
本学地域福祉学科に入学して、本当によかったと思います。福祉を学ぶということとは勿論ですが、それ以外にも「実」の多い二年間になりそうです。学生数が少ないため、すぐに名前を覚えてもらえ、様々な先生から授業を通して、また授業以外からもいろいろな考え方に触れることができます。それに、大部分の学生が一人暮らしのため、親元を離れて淋しいのはみな同じだったらしく、友達もすぐにできました。ただの友達というだけでなく、自分の考え、将来の事などを吐露できる仲の良い友達ができたと、何よりもよかったです。

この二年間、一生懸命に勉強して様々な事柄を吸収し、その人の人となりを考え、その人にとって最善の支援ができる介護福祉士を目指そうと思います。また、入学した当初よりも心の広い人間になって卒業したいと考えているので、たくさん経験が必要だなあと思い始めているこの頃です。

精一杯の自分を

二年次生 角 ひとみ
短大生になってはや一年が経過した。知識も技術もゼロの状態からスタートし、今でも決して胸を張れる程のものを身につけたとは言えない。二年生になった今、思うことは、もっと学ぶことに積極的であろうということだ。介護に直接関係する知識、技術はもちろんのこと、一見、無関係に見える分野の知識もよりよいケアをする上では重要であるということが、最近ようやくわかってきた。学生のうちにしか専念できないであろう「学ぶ」という特権をもつと大切にしていきたいと思う。それと同時に、知識に縛られることなく、「どうしてこうなるのか」を自分自身で常に考える姿勢を身につけた。介護福祉士を目指す者として、常に奥にある要因に目を留められる感覚を養っていきたい。

さらなる財産をつくる

二年次生 岡田裕史
地域福祉学科のみんなと出会って早くも一年、そして二年生になってすでに二ヶ月が経とうとしている。この一年間は、さまざまな経験をしていく中であつという間に過ぎてい

った。

とりわけ印象に残っていることは、初めての実習となった介護実習である。いままで学んできた技術と実習施設でのやり方の相違のなかで、戸惑いや失敗をたくさん経験した。しかし、対象となった高齢者の方々が時折見せてくれる笑顔や「孫のように思う」とのやさしい声を頂いて、心安らぐ思いをした。二週間という短い実習だったが、高齢者の方々のふれあいの中で得たものは私の財産になったように思う。

学生生活もいよいよあと一年となり、これから迎える二段階、三段階の実習や就職活動あるいは進学に向けた進路選択に向けて動き出さなくてはならない。毎日を仲間たちと楽しく充実したものとしていきながら、ひとつひとつ財産をつくらうと考えている。



幼児教育学科

私と施設実習

本学非常勤講師 植田 克美

二十年にわたる非常勤講師としての業務の中で、一番大切に思っていることは、他ならぬ「施設実習」を通しての学生たちとの触れ合いでした。施設実習は私の担当する「養護内容」「養護原理」の二つの学問が施設実習の現場で如何に実践されているかを検証できるのです。

私はこの重要な施設実習に当たり学生に対して「激励訪問活動」を数回実施してきました。何といっても、施設実習は学生たちにとっては大きな不安と、それを乗り越えようとする若者らしいアタック精神とをないまぜる初めての経験です。実習前になると学生たちから、私に激励訪問を要請してきます。学生たちが精神込めて奮闘している実際の活動の現場で、学生たちは苦労話や重症児への給食介助や治療教育の実態、さらには各施設での日課の流れを語りました。遠隔地で寂しさに耐えながら慣れぬ作業に汗を流し、日焼けした面上に、私と顔を合わせた瞬間、一瞬走った喜びと感動の面差しは、私のながい「社会福祉時代」の中でも生涯忘れられない感動の光景でした。それは学生たちの若者らしいひたむきな姿でした。その時咄嗟に浮かんだのは「社会福祉こそ私のライフワークである」と決意した若き日

の自分の姿だったのです。
舞台の裏方から見た

「にいみこどもフェスタ」

新見文化交流館 林 正裕

私は新見文化交流館で舞台音響の仕事に携わっており「にいみこどもフェスタ」のサポートをさせてもらいました。

毎回開催される度に感じる事があります。限られた時間の中で本番に向けての形を完成させて、子供たちを退屈させることなく舞台を確実に進行させながら楽しめる作品を見せてあげる企画・演出の素晴らしさ、また学生たちのパワーにも圧倒されます。毎日のハードな練習にもかかわらず、疲れを見せない演技・踊り続け、本番までその体力を持続させる事に毎回私は驚かされるばかりです。それだけ「にいみこどもフェスタ」に対する強い情熱が、舞台上に従事する私の目から見ても伝わってくるものがあり、終了後の達成感に満ちた学生の姿を見ると釣られて感激する自分自身がいて、次回の作品にも期待を持ってしまいます。学生の皆さんのひたむきな努力を評価するのは、学校関係者の方々もそうですが、舞台裏方の方々もそうですが、舞台裏方の人間も影ながら評価している事を頭の片隅に置いて頂ければ幸いです。

新見から始まる僕の生活

一年次生 渡部 祐士

岡山から特急で約一時間、僕は新見市にきました。僕の住んでいた町（愛媛県温泉郡川内町）より都会の新見市に僕の胸は躍りましたが、不安でもありました。なんといつても初めての一人暮らしだから、最初の夜はなかなか眠ることができませんでした。

次の日、僕の生活は食料の確保から始まりました。とりあえずは移動に便利な自転車を購入して、近くのスーパーで買い物をしました。主夫みたいにどの野菜や肉が美味しそうか見極めながら、ここに来て初めての料理はカレーになりました。

三日目は新見市の探索です。どこにどんなお店があるのかを覚えるために、自転車で走り回りました。発見したことと言えば、飲食店の数が多かったことに驚いて、都会だなあ……と黄昏れました。そしてカラオケボックスがないことに涙しました。

アメリカ研修に参加して

二年次生 金久 弥生

三月十九日から四月一日まで、私たちはアメリカ・ニューパルツに行きました。ニューパルツは小さな町で、

環境も人々も温和な感じがした。私は、キャラ、ステイブ、アリス、マーガレットの四人家族のお宅と、後半はその隣に住むエレン宅にホームステイさせていただいた。最初のお宅では毎日八歳のマーガレットと遊んだ。キャラとエレンは大学までの送り迎えをしてくれたり、遠くのビッグマーケットにも連れて行ってくれた。ステイブも一緒にカントリーダンスを踊ってくれたり私にたくさんの経験をさせてくれた。他のホストファミリーとのパーティーやハイキングも本当に楽しかった。

保育園などの施設訪問では、職員さんの話を聞いたり、壁面構成を見たりして保育に役立つ知識をたくさん得た。幼児教育学科から参加した伊藤さん、田中さん、福田さん、本間さん、溝田さんと私の六人は四か所の保育施設でたくさんの子どもたちと遊び、いろいろな機会にみんなが手話の歌も披露した。子どもの英語は容赦なかったが、様々な子どもたちと触れ合えたことは本当に楽しかったし、勉強になった。

私たちを優しく温かく迎えてくれたホストファミリーの方々、ニューヨーク州立大学ニューパルツ校の方々には本当に感謝している。

約二週間という短期間のステイだったが、日々の様々な経験や受けた影響はすばらしい財産だと思う。近い将来、また必ずニューパルツを訪れたい。

同窓会の コーナー

阿新診療所

看護学科第五期生

土屋 泉

ご無沙汰しておりますが、皆さんお元



気で過ごしてでしょうか？現在、医療生協の診療所で外来とケアマネージャーを兼務しています。四月までは訪問看護とケアマネの兼務で、外来は四年ぶりです。覚えることも色々あって、ちょっと緊張した毎日を送っています。でも、新しいことを学んでいくのは嬉しいものですし、自分とほとんど年代の変わらない患者さんと接するのは、在宅療養中の高齢の方々とかかわりとは違った発見もあります。

ところで、私は社会人経験のある入学生の一号らしいです。今の年齢から考えると若かったと思うのですが、入学当時は二十七歳で、四歳と二歳の二児の母でした。同級生はみんな十八歳だったので、私はずいぶん年上の気分でした。夫は水島で勤務し、私と子供は夫の実家で厄介になつていました。おかげで看護師の資格がとれ、今こうして楽しく仕事ができています。でも、子供たちには可哀想なことをしたなあと、當時を振り返り反省する今日この頃です。

宍道町保育所・わんぱく園

幼児教育学科第十一期生

藤原(旧姓池田)瑞穂

今年四月より、新見短大卒業の保育士一年生と一緒に仕事をするようになりしました。なつかしく短大の話をしながら十歳もの歳の差を改めて考えたりもしています。そこで私も一年目を思い出しながらこの十年を振り返ってみたいなあと思います。

保育士一年目、何をすることも不安がついてまわっていました。それが一年、二年と経験を重ねる毎に自信をつけ、後輩も増え、中堅どころな発言できるようになりました。そして結婚して私にも子どもができて、一年後には子どもを保育園に預けて仕事復帰。実際に子どもを持ったことで、働くお母さんの気持ちになり、少しずつ保育の中に生かせるようになってきました。でも逆に、子育てについて他のお母さんに言っていたことが自分の子どもに置き換えると言えなくなることがあり、保育士として悩んでいる毎日です。そんな悩みを仲間の保育士さんに相談して助けてもらったり、我が子の笑顔に支えられたりしながら、私も子どもと一緒に「おおきく」なつていけたらいいなあと思います。

評議委員会報告

新見公立短期大学

非常勤助手

看護学科第八期生

馬本 智恵



新見市に住んでいながら、なかなか同窓会の評議委員会に出席できず申し訳なく思っています。先日の大卒祭の日に評議委員会が開かれ十四名の評議委員が出席し、協議を行ないました。十三年度の事業報告、会計報告がされ承認されました。また二年二回発行される学報「まんさく」の購読についてですが、毎回全卒業生に送付しています。しかし約三分の一は手元に届いておらず、短大のほうへ戻ってきます。住所変更されている方は、現住所を教えてくださいましたらと思います。また、年賀状のやり取りなどで知っておられる方も教えていただけたらと思います。名簿作成にもご協力お願いします。

また、四年制大学への移行について一人ずつ意見を言っていました。経済的な面でどうなのか、校風は変わってほしくない、専攻科ができれば選択肢が増える、編入制度ができればもう一度勉強する場ができてよい、などの意見が出ました。四年制大学が増えていく傾向がある中で新見短大が発展していくよう、いろいろ考えておられるようです。

これからも、皆さんのご協力をいただきながら、新見公立短期大学が益々発展していきますよう、がんばっていききたいと思えます。

学報「まんさく」メール便り

内科ばかりで十三年。老人の医療に疑問を持つ毎日です。静かな死は難しいです。(看七・荒木俊子・鳥)

取生協病院)

看護学校の教員四年目。改めて、自分の看護を実践したいなあ、なんて思うこの頃です。(看七・高橋三子・愛媛県立伊予三島看護専門学校)

佐賀医科大学大学院の二年生。老年看護に関する修士論文のために毎日研究に取り組んでいます。(看十三・大畑政子・佐賀医科大学)

準夜明けに、深夜営業のスーパー銭湯へ行く事が、最近の日課になっています。(看十六・山本寛子・松山赤十字病院)

ただ今、保健師四年目。春に結婚し仕事と家事に日々追われていますが、毎日楽しいです。(看十六・角野(藤川)英子・高知県鶴岡町役場)

私にとつてかけがえのない場所新見。いっぱい学んで、多くの友達や先生に出会っていたからこそ、今の私があるんだから！(看十六・大倉亜希子・板橋中央病院)

助産師一年目に取り上げた赤ちゃんの成長をみると、自分も少しは成長したのかなと感じます。(看十七・泉 美沙・石川県立中央病院)

保健師の資格をとって、現在ナイース三年目。看護の質を高めるよう日々努力しています。(看十七・福田みさと・西神戸医療センター)

学報「まんさく」や同窓会のページについてのご感想ご要望などがございましたら遠慮なくお知らせ下さい(e-mail:mansaku@nimi.c.ac.jp)。

在籍者数

2002.5.31現在

	看護学科	幼児教育学科	地域福祉学科	計
1年次生	75	56	56	187
2年次生	65	60	53	178
3年次生	65			65
計	205	116	109	430

出身都道府県別在学生数

2002.5.31現在

府県	学科 学年	看護学科			幼児教育学科		地域福祉学科		合計
		1年	2年	3年	1年	2年	1年	2年	
千葉				1					1
神奈川県		1							1
石川県			1						1
福井県			1	1	1	1			4
長野県			1						1
静岡県				1					1
愛知県		1	1		1				3
東京都		1	1		1			1	4
大阪府		2	1	2					5
兵庫県		20	10	19	10	10	9	6	84
和歌山県		2			1				3
鳥取県		1	3	3	2	7	4	3	23
島根県		5	8	7	8	5	4	4	41
岡山県		15	9	9	8	10	15	12	78
うち阿新地区									
広島県		10	9	2	4	2	3	4	34
山口県		2	5	2	6	3	5	9	32
徳島県		3	2			3			8
香川県		2		1		3	3	2	11
愛媛県		1	3	6	8	8	6	6	38
高知県		2	1		1		1		5
福岡県		1	3	1		1	1		7
長崎県		2	1	1	1	2	1	1	9
熊本県						1			1
大分県			2	1	2	1	1		7
宮崎県		1	2	2		1	3	2	11
鹿児島県		3	1	4	2	2		3	15
沖縄県				2					2
合計		75	65	65	56	60	56	53	430

転入

新採用

転出

主課 幹長 助学 手長
 西村 真壁 勉 孝文 福原 博子 難波 正義

新居 志郎 山岡 喜美子 湯舟 貞子 上村 督 新持 正

事務局

事務局長 平野 展男

看護学科

講師 白神 佐知子

助教授

助教授 金山 時恵

助教授

助教授 上山 和子

助教授

助教授 山中 文

教授

教授 井関 智美

教授

教授 伊藤 博康

昇格

地域福祉学科

地域福祉学科

地域福祉学科

地域福祉学科

地域福祉学科

新学科長

どうぞよろしく

いっしょにがんばりましょ

お知らせ

このたび任期満了でご退任になった新居志郎前学長への本学名誉教授の称号授与式が五月十九日に本学で挙行されました。ご在任中のご尽力を深く感謝いたします。



イラスト

幼児教育学科一年次生 坂田 英美

編集委員
 委員長 原田 信之
 委員 村中 哲夫
 委員 古城 幸子
 委員 山内 幸子
 委員 山藤 誠慈
 委員 矢野 護

*十一月十六、十七日に開催される「全国マルチメディア祭2002 in おかやま」(サブ会場・まなび広場にいみ)に本学も参加します。

今回からは、旧教職員の方々へも学報「まんさく」を配布することになりました。同窓会のページのお便りの数々は、私たち教職員が学生に向かう際のエネルギーの源になってくれています。旧教職員の方々へのメッセージも含めて、皆様の近況などをメールでお寄せください。住所変更なども是非お知らせください。楽しみに待っています。(古城)

